

Web of Science Core Collection の引用文献検索を用いた モラルインジャリー研究の潮流

Trends in Moral Injury Research

Using Web of Science Core Collection Citation Searches

増田 裕美・白柿 綾・庄野 亜矢子

Hiromi Masuda, Aya Shiragaki, Ayako Shono

要旨

本研究は、Web of Science Core Collection の引用文献検索を用いて、Litz 他（2009）のモラルインジャリー（Moral Injury：MI）論文の被引用状況を分析し、理論的出発点から積み重ねられた研究潮流を可視化し、MI 研究の発展を体系的に理解することを目的とした。Litz 論文を引用したレビュー 42 件を分析した結果、MI 研究は退役軍人の PTSD 研究を起点として多様な定義および評価尺度が展開され、COVID-19 パンデミック下の医療従事者に対象拡大し、2022 年に最多となった。MI は「社会的な傷」として、人間関係の喪失と深く関係した特有の症状を持つと再定義された。倫理的問題に直面し、道徳的葛藤を抱える医療従事者の体験について、研究が先行していたモラルディストレス（Moral Distress：MD）の概念では説明できなかった深層的な罪悪感、恥、怒り、孤立感などに MI の概念が応用可能であった。MI と MD の概念的重なりと違いや関連概念の理論的・実証的な解明は、医療従事者の心理的回復とメンタルヘルス支援の充実につながると示唆された。

キーワード：モラルインジャリー, Moral Injury (MI), モラルディストレス, Web of Science Core Collection (WOS), 引用文献検索

I. はじめに

職業的健康において、人の道徳的価値観や信念に反する影響を説明する概念として、モラルインジャリー（Moral Injury：以下、MI）とモラルディストレス（Moral Distress：以下、MD）がある。

MI とは、「自分や他者の行動が、個人の道徳的・倫理的信念を深く裏切ることによる持続的な傷」と定義され、戦場経験者の心理的損傷を説明する言葉である（Litz 他, 2009）。日本語では、「道徳的

傷つき」や「道徳的傷害／負傷」などと訳されている。この用語は1994年にShayによって初めて提示され、心的外傷後ストレス障害（Post Traumatic Stress Disorder：以下、PTSD）研究の中で、慢性かつ重度の精神的・行動的健康問題を抱える一部のベトナム戦争退役軍人が経験する、根深い不信任感、士気の低下、孤立を説明するために用いられた（Litz, 2025）。2009年、Litz 他は、“Moral injury and moral repair in war veterans: A preliminary model and intervention strategy”において、戦争帰還兵の体験をもとに、MIをPTSDでは説明しきれない罪悪感、恥、正当な怒りといった感情を倫理的苦悩として理論化し、道徳的に侵害的な出来事（potentially morally injurious events：以下、PMIEs）を提唱した。この論文は、その後のMI研究の学術展開の理論的出発点となっている。MI研究の目的は、臨床科学を推進し、研究者や臨床家に対し、PMIEsという独特の現象論を概念化し対処するよう促すことにある（Litz, 2025）。Litz & Walker（2025）は、MIを「PMIEsに曝露された後に生じる、羞恥や罪悪感、怒り、不信といった道徳感情の機能障害的持続と、それに伴う自己・他者・世界観・人生の意味の変容」と再定義するに至った。MIは普遍的な道徳的葛藤や一過的な苦悩とは区別され、既存のPTSDや抑うつのはずみでは十分に説明できない臨床的問題として位置づけられた。彼らは、MIを社会的機能モデルに基づき、「人間関係や共同体との断絶を中核とする社会的な傷」と捉え、矯正的・共感的体験や関係性再構築を治療の中心に据えるべきだと論じている。この最新レビューは、MIの概念、定義、測定、介入に関する現時点での集大成であるといえる。

MIについては、2009年のLitz 他による理論提起が中心的基盤となり、2025年の包括的整理に至るまで、多くの研究が展開されている。データベースのWeb of Science Core Collection（以下、WOS）において、「Moral Injury」をキーワード検索すると、約2550件の文献結果が提示される。その中で、最も引用されている論文はLitz論文であり、被引用回数は1500回を超えている。co-citation map（共引用マップ）は図1の通りである。

筆者らは、クリティカルケア看護および精神看護における倫理的問題について、MDのレビューを行い、COVID-19パンデミックによる医療従事者のメンタルヘルス悪化への道徳的影響について分析した。その結果、MDはMIや共感疲労、PTSDとも関連があることが明らかとなり、それらの概念間の重なりと違いに注目する必要があることが研究課題として示唆された（白柿・庄野, 2025；庄野他, 2025）。MIに関する研究では、MIの定義の多様性や、MIとMDの概念の混同

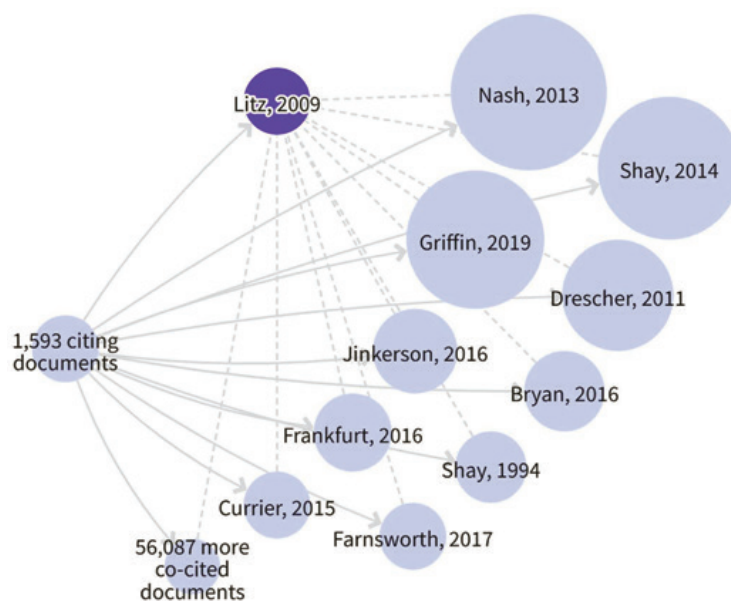


図1 co-citation map

と見受けられる記述があることが指摘されている（Richardson 他, 2020 ; Riedel 他, 2022）。本研究では、MI と MD の概念の重なりと違いにも注目する。

本研究は、Web of Science Core CollectionにおけるLitz論文を引用したレビュー文献を対象に分析し、MI研究の理論的展開過程および今後の展望を明らかにすることを目的とする。レビュー文献の目的は、先行研究を分析することで研究テーマの背景や限界を明らかにし、その後に展開する新規研究の方向性やリサーチクエスチョンを深化させる示唆を得ることであり、調査研究等の起点となることが多い。また、キーワード検索に基づく文献レビューに対して、特定の文献の被引用動向に注目することは新たな試みである。引用分析は、定義や尺度の変遷、対象集団の拡大、MD や PTSD などの関連概念との関係の再検討といった研究潮流を可視化する。Litz らによる 2009 年の理論的出発点と 2025 年の包括的整理の間に積み重ねられた被引用動向を俯瞰することは、MI 研究の発展を体系的に理解するうえで極めて意義深いと考える。

Ⅱ. 研究方法

1. 方法

WOSを用いて、Litz 他（2009）の“Moral injury and moral repair in war veterans: A preliminary model and intervention strategy”を引用検索し、1,347 件が検索された（検索日：2025 年 6 月 30 日）。文献種別は 80%が論文であり、分布は図 2 の通りであった。出版年は 2010-2025 年であり、分布は図 3 の通りであった。抄録がある 1,256 件を抽出し、タイトル及び抄録に「Moral Injury」と「review」の記載があったものは 42 件であった。

2. 倫理的配慮

著作権を侵害しないよう出典を明記した。

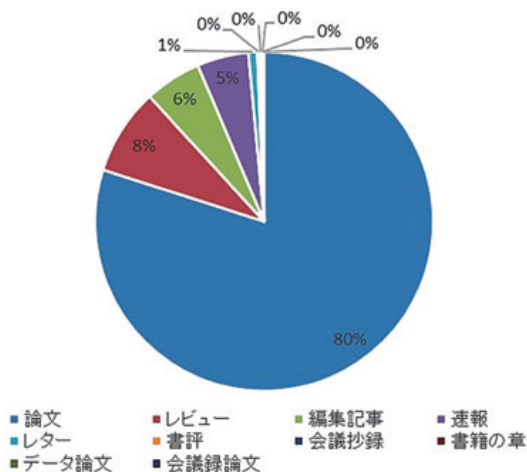


図 2 文献種別

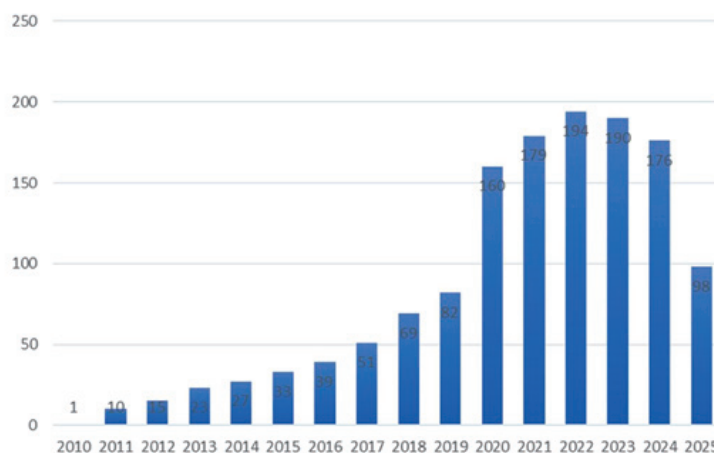


図 3 出版年の分布

Ⅲ. 結果

1. モラルインジャリーの概要等に関するレビュー論文

MI の概要に関する論文は7件であった。Griffin 他（2019）はMI 研究の変遷から、MI の定義が多様であることや、ゴールドスタンダードとなる評価指標がないことを指摘している。このレビューのWOS 引用回数は443回と多く、レビュー論文の中で最多であった。Moerdijk 他（2022）はMI の学際的理論構築の必要性を示唆した。Hall 他（2022）は、MI に対するPTSD・抑うつ・不安・自殺・薬物使用・その他のメンタルヘルスおよび行動的健康アウトカム（疼痛、バーンアウト、睡眠障害、受療行動）の影響を検証した。職業上のPMIEs（Williamson 他, 2018）とMI（McEwen 他, 2021）は、メンタルヘルスの悪化と有意な関連があり、非軍事集団への適用が示唆されていた。Williamson 他（2022）は、MI と過激化（政治、思想、宗教などにおいて、本来の立場から大きく逸脱し、過激な手段や考え方を持つようになること）が、メンタルヘルスの悪化や自殺といった共通の有害な結果をもたらす点に注目した。さらに、MI と過激化に関連するPMIEsは、個人的意義の喪失、アイデンティティへの疑問、出来事のあるとみなされる組織への幻滅など、類似したリスク要因や防御要因を共有している可能性があるとして主張した。Litz & Walker（2025）は、MI 研究の発展を踏まえ、MI の概念、定義、評価、および治療に関する包括的なレビューを行った。MI は、「道徳的な感情、信念、行動の機能障害、および個人または集団の人間性や人生の意味と目的に関する否定的な信念を特徴とする潜在的な臨床問題」とした。MI は、PTSD と異なり、恐怖ではなく罪悪感・恥・怒りなどの道徳的感情が中心である。MI は、PTSD や抑うつ症状と重複するが、独自の症状を持ち、PTSD の研究者および治療提供者は、トラウマの道徳的影響を評価することが重要である。また、MI の社会的機能モデルとして、MI は社会的な痛みと人間関係の喪失に関連しており、治療には社会的なつながりを再構築することが重要であると提唱した。

MI の尺度に関する論文は1件であった。Houle 他（2024）は、関連概念であるMD とMI の評価尺度をレビューし、77件の研究、89件の独立したサンプルから42の独自の尺度を特定し、25件のMD 評価尺度、17件のMI 評価尺度に分類して検証した。「MD」という用語を使用する尺度は一般的なストレスを評価し、「MI」という用語を使用する尺度は複数の具体的な結果を評価していた。

このほか、チャプレンシー（Chaplaincy：牧師による宗教的サポート）に関する論文（Carey 他, 2016；Jones 他, 2022）が2件あった。VR を活用した介入（Gausemel & Filkukova, 2024）や薬物治療に関する論文（Kurkova 他, 2025）の2件は、いずれも2025年出版と新しく、被引用数はゼロであった。

2. 軍人を研究対象としたレビュー文献

軍人および退役軍人を対象としたレビュー10件は、2015年から2024年に出版されていた。Nazarov 他（2015）は、軍隊におけるメンタルヘルス問題について、MI に関連する「罪悪感」と「恥」の症状

が特に PTSD の発症と関連しているとし、介入の必要性を提唱した。Frankfurt & Frazier (2016) は、Litz 論文で示された 3 つのモデルから研究の展望を提言した。Richardson 他 (2020) は MI の定義について 124 研究を分析し、12 の定義を抽出した。このレビューの WOS 引用回数は 219 回と多かった。Koenig 他 (2019) は、Moral Injury Symptom Scale-Military Version (MISS-M : MI 症状尺度軍事版) についてレビューした。Koenig 他 (2019)、Jamieson 他 (2023) は、軍人の PTSD に関連した MI の自殺のリスクについてレビューした。Lopes 他 (2023) は性的トラウマに焦点を当てた。Brémault-Phillips 他 (2019)、Kelley 他 (2024) は、スピリチュアリティ・宗教との関係や介入に焦点を当てた。Hollis 他 (2023) は、ベトナム戦争退役軍人の臨床研究から提唱された MI が心理学的・社会学的研究の中で個人要因化された変遷をたどるレビューを行い、MI をより包括的に捉え、MI は地域社会における社会的な傷であり、「MI は、他者とのつながりを感じたいという人間の基本的なニーズに対する心理的な傷」と再定義した。また、この再定義を軍人だけでなく、COVID-19 パンデミック以降の医療従事者や社会福祉従事者など一般民間人に適用することを提言した。

3. 軍人以外を研究対象としたレビュー文献

研究対象者を軍人および退役軍人以外としたレビューは 20 件あった。

20 件のうち、医療従事者以外を研究対象とした文献は 5 件であった。公安職員 (消防士・救急隊員・警察官) 1 件 (Lentz 他, 2021)、医療以外のエッセンシャルワーカー 1 件 (Gaitens 他, 2021)、強制移住者 1 件 (Tuomisto & Roche, 2018)、難民 1 件 (Donovan 他, 2025)、青少年犯罪者 1 件 (Alexander & Kerig, 2025) であった。

医療従事者を研究対象とした文献は 15 件であり、文献リストを表 1 に示す。対象を医療従事者全般とした論文は 8 件、医師に限定した論文 1 件、看護師 3 件、看護及び介護スタッフ 1 件、法医学・精神医学現場の医療従事者 1 件 (Webb 他, 2024)、精神保健福祉家 1 件 (Chew 他, 2023) であった。

Stovall 他 (2020) は、患者安全インシデント (PSI : Patient Safety Incident) に関与した看護師は、組織的、環境的、文化的、心理的な要因によって MI を経験する可能性があることを指摘した。Anastasi 他 (2025) は、看護師による 8 研究を分析し、MI、不安、抑うつの間には有意な正の関連が認められ、生活の質との間には有意な負の関連を認めた。Mewborn 他 (2023) は、2017 年から 2023 年の MI が医療文献で認識されるようになった期間の文献レビューから、道徳的ストレスおよび PMIEs に個人的要因が加わることで MD を引き起こし、MI に発展する連続体を提示した。また、個人的リスク要因として、若年 (45 歳未満)、医療従事歴の少なさ、無宗教、不安や抑うつの既往歴、仕事への不満、バーンアウトの症状などを挙げ、適切な対処がとられない場合、バーンアウト、離職、PTSD につながる可能性を指摘した。これらのリスクは、COVID-19 パンデミック下で悪化すると予測した。

Cartolovni 他 (2021) は、過去のエボラ出血熱流行などの感染症パンデミックの経験から医療従事者、

表1 医療従事者を対象としたレビュー文献

区分	原題 和訳	著者	掲載	出版 年	研究目的	WOS での 引用 数	全 デー タ ベー ス での 引用 数
看護師	A Critical Review: Moral Injury in Nurses in the Aftermath of a Patient Safety Incident 批判的レビュー: 患者安全事故後の看護師のモラルインジャリー	Stovall, M; Hansen, L; van Ryn, M	JOURNAL OF NURSING SCHOLARSHIP 52(3):320-328.	2020	患者安全インシデント(PSI)の余波で看護師に経験的に観察されたモラルインジャリーの症状の説明	55	68
看護師	Moral injury and mental health outcomes in nurses: A systematic review 看護師のモラルインジャリーとメンタルヘルスの結果: 系統的レビュー	Anastasi, G; Gravante, F; Barbato, P; Bambi, S; Stievano, A; Latina, R	NURSING ETHICS 32(3):698-723.	2025	看護師におけるモラルインジャリー、不安、抑うつ、および生活の質の関連性を明らかにする	4	4
医療従事者	Moral injury in healthcare professionals: A scoping review and discussion 医療従事者のモラルインジャリー: スコープレビューと議論	Cartolovni, A; Stolt, M; Scott, PA; Suhonen, R	NURSING ETHICS 28(5):590-602.	2021	モラルインジャリーに関する実証研究から得られた非常に限られたエビデンスを統合し、モラルインジャリーの概念、医療の文脈におけるその重要性、そしてよく知られている道徳的苦痛の概念との関係について、より深く理解すること	220	243
医療従事者	Examining moral injury in clinical practice: A narrative literature review 臨床実践におけるモラルインジャリーの検討: 叙事的文献レビュー	Mewborn, EK; Fingerhood, ML; Johanson, L; Hughes, V	NURSING ETHICS 0(0):1-45.	2023	医療におけるモラルインジャリーを取り巻く概念を区別し、原因を定義する	24	24
医療従事者	Psychological Group Interventions for Reducing Distress Symptoms in Healthcare Workers: A Systematic Review 医療従事者の苦痛症状を軽減するための心理的集団介入: 系統的レビュー	Sanz, S; Valiente, C; Espinosa, R; Trucharte, A	CLINICAL PSYCHOLOGY & PSYCHOTHERAPY 31:e2980.	2024	医療従事者の苦痛症状(PTSD、パニック、不安、抑うつ、モラルインジャリーに関連する症状の存在を特徴とする、複雑かつ多様な感情状態)を軽減するための集団心理療法に関する既存の研究の統合	3	4
精神保健 専門職	Moral injury and associated context, contributors and consequences within mental healthcare professionals: a scoping review 精神保健専門家におけるモラルインジャリーと関連する文脈、要因、結果: スコープレビュー	Chew, QH; Lee, TS; Sim, K	POSTGRADUATE MEDICINE 135(7):646-668.	2023	メンタルヘルスクア現場における医療従事者におけるモラルインジャリーの寄与因子と結果を検討する	4	4
法医学・ 精神医学 医療従事者	Potential Sources of Moral Injury for Healthcare Workers in Forensic and Psychiatric Settings: A Systematic Review and Meta-ethnography 法医学および精神医学現場における医療従事者のモラルインジャリーの潜在的原因: 系統的レビューとメタエスノグラフィ	Webb, EL; Ireland, JL; Lewis, M; Morris, D	TRAUMA VIOLENCE & ABUSE 25(2):918-934.	2024	法医学および精神医学の現場で働く医療従事者が直面する潜在的に道徳的に傷害を与える出来事(PMEs)について調査する	16	16
COVID-19 医師	Addressing Postpandemic Clinician Mental Health A Narrative Review and Conceptual Framework パンデミック後の臨床医のメンタルヘルスへの取り組み: ナラティブレビューと概念的枠組み	Schwartz, R; Sinsky, JL; Anand, U; Margolis, RD	ANNALS OF INTERNAL MEDICINE 173(12):981-988.	2020	COVID-19後の臨床医のメンタルヘルスを守るために、エビデンスに基づいたアプローチで、包括的な臨床医のメンタルヘルス支援を開発・展開する	54	63
COVID-19 看護師	Psychoanalytic Perspectives on Moral Injury in Nurses on the Frontlines of the COVID-19 Pandemic COVID-19パンデミックの最前線で働く看護師のモラルインジャリーに関する精神分析的視点	Lesley, M	JOURNAL OF THE AMERICAN PSYCHIATRIC NURSES ASSOCIATION 27(1):72-76.	2021	COVID-19患者ケアの最前線で働く看護師のモラルインジャリーの可能性に対する認識を高め、心理的苦痛の可能性を高める可能性のある精神機能の側面を提示し、看護師のメンタルヘルスをサポートするために精神分析の考え方を活用するアプローチについて説明すること	25	30
COVID-19 看護介護 職員	Prevalence, Predictors, and Experience of Moral Suffering in Nursing and Care Home Staff during the COVID-19 Pandemic: A Mixed-Methods Systematic Review COVID-19パンデミック中の看護・介護施設職員における道徳的苦悩の有病率、予測因子、および経験: 混合手法による系統的レビュー	Laher, Z; Robertson, N; Harrad-Hyde, F; Jones, CR	INTERNATIONAL JOURNAL OF ENVIRONMENTAL RESEARCH AND PUBLIC HEALTH 19:9593	2022	COVID-19パンデミックの間、介護施設職員におけるモラルインジャリーおよびモラルディストレスの有病率、予測因子、および心理的経験を調査する	16	18
COVID-19 医療従事者 公安職員	Potential Circumstances Associated With Moral Injury and Moral Distress in Healthcare Workers and Public Safety Personnel Across the Globe During COVID-19: A Scoping Review COVID-19流行下の世界中の医療従事者と公衆安全職員におけるモラルインジャリーと道徳的苦悩に関連する潜在的な状況: スコープレビュー	Xue, YX; Lopes, J; Ritchie, K; D'Alessandro, AM; Banfield, L; McCabe, RE; Heber, A; Lanius, RA; McKinnon, MC	FRONTIERS IN PSYCHIATRY 13:863232.	2022	COVID-19パンデミック中の医療従事者と公衆安全職員(PSP)における潜在的に道徳的に傷害を与える、または苦痛となる可能性のある出来事(PME)を世界中で特定し、比較すること	40	41
COVID-19 医療従事者	A Scoping Review of Moral Stressors, Moral Distress and Moral Injury in Healthcare Workers during COVID-19 道徳的ストレス要因、道徳的苦痛、道徳的ストレスのスコープレビュー COVID-19による医療従事者の負傷	Riedel, PL; Kreh, A; Kulcar, V; Lieber, A; Juen, B	INTERNATIONAL JOURNAL OF ENVIRONMENTAL RESEARCH AND PUBLIC HEALTH 19(3):1666.	2022	COVID-19の厳しい時代に、医療現場における職場のストレス要因を理解するための新しいアプローチの原因と結果を明確に特定すること	145	155
COVID-19 医療従事者	Healthcare Workers and COVID-19-Related Moral Injury: An Interpersonally-Focused Approach Informed by PTSD 医療従事者とCOVID-19関連のモラルインジャリー: PTSDに基づく対人関係に焦点を当てたアプローチ	D'Alessandro, AM; Ritchie, K; McCabe, RE; Lanius, RA; Heber, A; Smith, P; Malain, A; Schielke, H; O'Connor, C; Hosseiny, F; Rodrigues, S; McKinnon, MC	FRONTIERS IN PSYCHIATRY 12:784523.	2022	モラルインジャリーとPTSDの関係性を踏まえ、PTSD症状の重要な調整因子として社会的要因と対人関係的要因を指摘し、この知見がCOVID-19関連のモラルインジャリーへの介入にどのように応用できるかを考察する	24	26
COVID-19 医療従事者	The Perceptions of Healthcare Staff Regarding Moral Injury and the Impact on Staff Life and Work During COVID-19: A Scoping Review of International Evidence COVID-19流行下の医療従事者のモラルインジャリーに関する認識と、それが職員的生活と仕事に及ぼす影響: 国際的なエビデンスのスコープレビュー	Jack, FJG; Kotronoulas, G	JOURNAL OF RELIGION & HEALTH published online: 07 April 2023	2023	国際的なエビデンスを統合して、COVID-19による制限は、医療従事者のモラルインジャリーの経験に影響を与えるかという質問に答える	2	3
COVID-19 医療従事者	Moral injury and mental health among health-care workers during the COVID-19 pandemic: meta-analysis COVID-19パンデミック中の医療従事者のモラルインジャリーとメンタルヘルス: メタ分析	Coimbra, BM; Zylberstajn, C; van Zuiden, M; Hoeboer, CM; Mello, AF; Mello, MF; Olf, M	EUROPEAN JOURNAL OF PSYCHOTRAUMATOLOGY 15(1):2299659	2024	COVID-19パンデミックの際、現役の医療従事者において、モラルインジャリーがPTSD、不安、抑うつ、パニック、自殺念慮の症状と関連しているかどうかを調べる	17	17

特に看護師のMIに注目し、出生から死までのライフサイクルのどの時点の患者のケアにおいても起こり得る、倫理的にストレスの多い困難な状況が医療従事者に深い感情的痕跡を残すとした。この論文はMIとMDの概念の重なりと違いについても分析しており、MIは、制御不能な状況や人間の残酷さを目撃するなどの外的・内的要因によって生じ、深い感情的な傷を残し、罪悪感や無力感などが長期的に続き、社会的孤立や機能不全につながる可能性がある。MDは、法律や病院方針などの外的制約、または道徳的価値観との葛藤によって生じ、自責や抑うつなどの心理的苦悩を引き起こし、ケアの質や仕事への満足度を低下させ、バーンアウトや退職につながることもある。両者は心理的影響や感情面で重なる部分があり、MDがMIに発展することもある。違いとして、MDは外的制約の除去や道徳的回復力の強化によって予防可能であるのに対し、MIは深刻で長期的な影響を持つが、適切な治療によって回復や道徳的成長も可能であるとした。このレビューのWOS引用回数は220回と多かった。

Sanz 他（2024）は心理療法について、グループ介入の有効性を提唱した。

医療従事者を対象とした15研究のうち8件はCOVID-19に関するものであり、2022 - 2024年に出版されていた。Laher 他（2022）は、COVID-19パンデミック下での過酷な状況における看護・介護施設職員にはMIとMDおよび関連概念（特に二次的心的外傷性ストレス）のリスクの悪化が予測されることを指摘し、物資・人材不足、役割変更に伴う責任過多、リーダーシップの欠如やコミュニケーション不足、感情的心理的問題などを抱えていると分析した。Xue 他（2022）は、COVID-19に関連した医療従事者と公安職員のMDとMIの発症リスクとなる事象について、COVID-19への感染リスクや個人防護具（PPE）の使用、組織からのサポート不足、スティグマ・差別などを特定した。

D'Alessandro 他（2022）は、COVID-19パンデミック中の医療従事者のMIに関連するPTSDについて、社会的支援、社会的承認、社会的排除といった対人関係要因がPTSD症状に影響することを示した。Lesley（2021）は、看護師自身がMIのリスクを認識することがメンタルヘルスサポートにつながるとしていた。Schwartz 他（2020）は、過去のパンデミック以降の医療従事者の精神疾患罹患率の高さから、臨床医のメンタルヘルスについて、睡眠などの基本的ニーズの充足、リーダーの役割や社会的支援、専門的プログラムの必要性などを提示した。

Coimbra 他（2024）は、医療従事者のMIについてメタ分析を行い、PTSD、抑うつ、不安、バーンアウト、自殺念慮などの症状と中程度に関連していること、看護師の数が多いサンプルでは、MIと不安および抑うつ症状との関連性がより強くなることを指摘した。Jack & Kotronoulas（2023）は、COVID-19による制限が医療従事者のMIにどう影響したかをレビューし、MIに関連したMDおよびバーンアウトは議論されていたが、共感疲労については議論されていなかったと報告した。Riedel 他（2022）は、レビューにおいてCOVID-19パンデミック下の医療従事者の道徳的ストレス要因とPMIEsの区別、MDとMIの区別の難しさを指摘した。

IV. 考察

1. モラルインジャリー研究の対象拡大

MI 研究は、Litz 論文を理論的出発点として、理論モデル構築が提唱されてきた (Frankfurt & Frazier, 2016 ; Molendijk 他, 2022)。また、Litz と協働して理論的枠組みおよび臨床応用を推進した Nash は軍人の MI の家族への影響を検証した (Nash & Litz, 2013)。Nash の論文は、Litz 論文を中心とした共引用マップにおいて、最も大きい関係性を示していた。

軍人は、加害・傍観・命令遵守・裏切りといった複雑な PMIEs に直面しやすく、罪悪感や恥 (Nazarov 他, 2015)、怒り、自己非難、孤立感が複雑に絡み合う MI は、抑うつ、不安、バーンアウトなどのメンタルヘルスの悪化と関連していることが明らかにされている (McEwen 他, 2021)。MI は PTSD とは異なり、恐怖ではなく道徳的葛藤を中心とする構造を持ち、軍人の自殺 (Koenig 他, 2019 ; Jamieson 他, 2023)、薬物使用 (Hall 他, 2022)、性的トラウマ (Lopes 他, 2023) などの行動学的影響への介入の必要性が指摘されている。

Litz 他 (2009) は、実用的な概念モデルから臨床介入アプローチを導出し、その検証の必要性を示した。これにもとづき、治療プログラム (Gausemel & Filkukova, 2024 ; Kurkova 他, 2025) の構築が進められている。軍人研究においては、軍事規律に対応可能なチャプレンによる救済 (Carey 他, 2016 ; Jones 他, 2022) やスピリチュアリティ・宗教的介入 (Brémault-Phillips 他, 2019 ; Kelley 他, 2024) は、単なる補助的要素ではなく、回復・意味づけ・関係性の再構築における中核的役割を担っていることが特徴的である。

Litz および Nash は米国における軍人の PTSD 研究者であるが、Williamson は英国退役軍人の MI 研究を行っており、MI の倫理的・社会的文脈を重視する欧州的アプローチの代表的研究者である。また、Williamson は MI 研究の対象を医療従事者へと拡大し (Williamson 他, 2020)、職業上の PMIEs を明らかにした (Williamson 他, 2022)。退役軍人と医療従事者の比較研究 (Nieusma 他, 2022) は、2001 年の米国同時多発テロ以降の退役軍人と 2020 年以降の医療従事者は、同等に潜在的な MI を抱えており、バーンアウトやメンタルヘルスの問題にさらされていたとしている。MI 研究が、職務上の倫理的問題に直面し、道徳的葛藤を抱える非軍事職業集団へと展開していった流れ (McEwen 他, 2021 ; Hollis 他, 2023) は、自然かつ必然的なものであったといえる。

医療従事者を研究対象とした MI 研究は 2022 年をピークに増え、COVID-19 パンデミック下の最前線で働く医師・看護師・介護スタッフのみならず、法医学・精神医学現場の医療従事者 (Webb 他, 2024)、精神保健福祉専門職 (Chew 他, 2023) など、精神医療臨床への適用も進んでいる。さらに、COVID-19 と同様に過酷な状況に直面した消防・救急・警察などの公安職員 (Lentz 他, 2021)、医療以外のエッセンシャルワーカー (Gaitens 他, 2021) にも MI 概念は適用されている。そのほか、強制移住者 (Tuomisto & Roche, 2018)、難民 (Donovan 他, 2025) および青少年犯罪者 (Alexander &

Kerig, 2025) などへの理論的応用も進展している。

2. モラルインジャリーの定義と尺度の変遷

MI 研究においては、定義の多様性やゴールドスタンダードとなる評価指標が未確立であることが広く共有されている (Griffin 他, 2019; Houle 他, 2024; Richardson 他, 2020)。ベトナム戦争退役軍人の臨床研究に端を発した MI は、COVID-19 パンデミック以降、医療従事者や社会福祉従事者などの一般民間人へと適用範囲が拡大し、その過程で MI の定義は「他者とのつながりを感じたいという人間の基本的なニーズに対する心理的な傷」と再考された (Hollis 他, 2023)。Litz 自身も、16 年間にわたる MI 研究の展開を経て、MI を「道徳的な感情、信念、行動の機能障害、および個人または集団の人間性や人生の意味と目的に関する否定的な信念を特徴とする潜在的な臨床問題」と再定義した (Litz & Walker, 2025)。

MI の評価尺度は、研究の拡がりと共に変遷した (Houle 他, 2024)。最初に、Litz とともに MI 研究をけん引する Nash 他 (2013) が、軍人向けの PMIEs の尺度である Moral Injury Events Scale (MIES) を開発した。その後、Koenig 他は、MI 症状に焦点を当てた MISS-M (Moral Injury Symptom Scale-Military Version: MI 症状尺度軍事版) を開発し、MISS-SH (MISS 短縮版) や MISS-HP (MISS 医療従事者版: Mantri 他, 2020) へと対象者を拡大した。軍人向けには、宗教やスピリチュアルな苦悩を含めて MI を評価する MIQ-M (Moral Injury Questionnaire-Military Version) や、感情表出に注目した EMIS-M (Expressions of Moral Injury Scale-Military Version) が開発され、臨床的な治療プログラムと並行して、癒しや救済の側面からの介入の研究が広がっていた (Koenig 他, 2019)。各国における文化的適応も検証されている。

また、Houle 他 (2024) は、MD が比較的一般的なストレス要因として示されるのに対して、MI は道徳的ストレスの帰結として精神的および行動的な健康問題、例えばバーンアウトや職業満足度の低下に関連すると報告している。MD と MI の研究は、尺度間での内容の類似性が認められ、適用された尺度が MD と MI の意図された運用化をどの程度反映しているかを慎重に検討する必要があることを提言している。

このように、MI は対象集団の拡大とともに定義が更新されており、現時点においても確定的な定義には至っているとは言い難い。定義の変遷に伴い、評価指標の焦点が変化し、尺度の妥当性や有効性についても再検討される可能性が高い。今後、研究者や臨床医は、特に既存の介入アプローチや新たな介入アプローチの有効性を評価する際に、MD と MI を測定する尺度によって評価される領域を明確にし、改善を継続することが重要である (Houle 他, 2024)。MI の理論的出発点は退役軍人支援であったが、対象の拡大に伴い、職務に関連した職業上の PMIEs を評価し、現役の職業人が職業を継続するための支援へと視点を移行する必要がある。

3. 医療従事者のモラルインジャリーと関連概念

MI は、PTSD や抑うつと重複する側面を持つが、道徳的アイデンティティの喪失、疎外感、信頼喪失などの他者との関係性の断絶（孤立・沈黙・支援希求の困難）、罪悪感、恥、怒り・裏切り感の慢性的持続、「償えない」「赦されない」「取り返しがつかない」といった道徳的回復不能感など、MI 特有の症状を持つ（Litz & Walker, 2025）。

COVID-19 パンデミック以前から、感染症流行後の医療従事者のメンタルヘルスの悪化は、精神疾患罹患率の高さから把握されていた。医療従事者を対象としたメタ分析では、MI は PTSD、抑うつ、不安、バーンアウト、自殺念慮などの症状と中程度の関連を示すことを報告した（Coimbra 他, 2024）。COVID-19 に関連した医療従事者の MD と MI の発症リスク因子としては、感染または伝染のリスク、所属組織によるサポート不足や不当な扱いの認識、スティグマ・差別・虐待などが特定されている（Xue 他, 2022）。看護師が多数を占める集団では、MI と不安・抑うつ症状との関連性がより強くなる傾向が示されており（Coimbra 他, 2024）、看護師の MI は不安、抑うつ症状の増加、生活の質の低下と関連していた（Anastasi 他, 2025）。松枝（2021）は、COVID-19 パンデミック下において、何の手立ても打てないまま次々と患者が亡くなっていくことに対する医療従事者の無力感や自責感が MI を引き起こすリスクであるとし、看護師の MI について警鐘を鳴らしている。医療従事者の MI に対して適切な対処が取られない場合、バーンアウト、離職、PTSD の悪化の可能性が予測されており（Mewborn 他, 2023）、世界的な医療崩壊に瀕しているといっても過言ではない現状がある。

MI は「社会的な傷」であり（Hollis 他, 2023）、社会的な痛みと人間関係の喪失と深く関係している（Litz & Walker, 2025）。したがって、治療には社会的なつながりを再構築することが重要である。この文脈において、MI に影響する対人関係要因として、社会的支援、社会的承認、社会的排除があり（D'Alessandro 他, 2022）、PTSD 症状を緩和させるためには、これらの要因に対する働きかけが必要であると考えられる。また、マインドフルネスなどのグループ介入の有効性（Sanz 他, 2024）も論じられている。メンタルヘルスの維持には、睡眠などの基本的ニーズの充足、リーダーの役割、社会的支援、専門的プログラムの導入が不可欠である（Schwartz 他, 2020）。感染対策という大義名分のもとで断ち切られた人と人のつながりを結びなおすプロセスが、医療従事者の MI からの回復に向けた希望の糸口となることが示唆されている。

4. 看護師のモラルインジャリーとモラルディストレス

看護師の倫理的課題については、米国の医療倫理学者・哲学者である Jameton が、1984 年に看護倫理の文脈で MD という概念と言葉を導入し、MI 研究に先行して広く展開された。MD とは、制約のために、倫理的価値や原則に基づく正しい行為を選択できない状況で経験する苦悩や心理的不安定さを意味する（庄野他, 2025）。看護師は約 90% が女性で構成される職業であり、歴史的に「養育的・従属的・ケア中心」の女性的役割と結びつけられてきたジェンダー構造を背景に、意思決定権の制限、職

業的評価の低さ、感情労働の過剰要求がMDの温床となると考えられている（白柿・庄野, 2025）。

一方、MIの概念は、加害・裏切り・傍観などの戦争体験を中心に構築され、軍事文脈に偏っていたため、看護師の体験とは乖離があった。しかし、COVID-19パンデミック下において、看護師は感染および伝染リスクを抱えながら患者の家族を拒否せざるを得ない制約や、治療法がないまま看取るジレンマなどのPMIEsに直面した。このような過酷な状況により、MDでは説明しきれない深層的な罪悪感、恥、怒り、孤立感が報告され、MIはMDの限界を超える説明モデルとして、MI研究が注目され始めたといえる。

Austin（2016）は、医療者が「正しいと知りながら行えない状況」に繰り返し置かれることで、道徳的アイデンティティが損なわれるMDがMIに発展すると理論的に提起した。看護師のMIは、出生から死までのライフサイクルのどの時点の患者のケアにおいても起こり得るものであり、深い感情的痕跡を残す（Cartolovni 他, 2021）。患者安全インシデントに焦点をあてた看護師のMI（Stovall 他, 2020）も論じられているが、COVID-19パンデミックによる著しいメンタルヘルスの悪化が最大の問題として浮上した。COVID-19パンデミック下の看護・介護スタッフは、個人防護具（PPE）などの物資不足、感染予防のための人員配置制限、減員による役割変更に伴う責任過多、リーダーシップの欠如、コミュニケーション不足、感情的・心理的問題などを抱えており、MIと二次的心的外傷性ストレスのリスクが悪化していた（Laher 他, 2022）。MIはトラウマと同質であり、人を信用できなくなり、他者とのつながりを分断する行動学的影響が症状として現れるため、看護師自身がMIのリスクを認識することがメンタルヘルス支援の前提として求められている（Lesley, 2021）。

COVID-19パンデミック下の医療従事者の道徳的ストレス要因とPMIEsの区別、MDとMIの区別の難しさが指摘されており（Riedel 他, 2022）、MIおよびMD研究の課題である。本研究で明らかになったMDとMIの対比を表2にまとめる。

ヨーロッパの医療倫理・看護倫理研究者であるCartolovniは、MIとMDの概念的重なりと違いについて分析している。MDとMIは心理的影響や感情面で重なる部分があり、MDがMIへと発展することもある（Cartolovni 他, 2021：図4, p.597）。2017年から2023年のMIが医療文献で認識されるようになった期間の文献のレビューでは、道徳的ストレスおよびPMIEsに個人的要因が加わることでMDを引き起こし、MIに発展する連続体であることが提示された（Mewborn 他, 2023）。MDがMIに発展する個人的リスク要因としては、若年（45歳未満）、医療従事歴の少なさ、無宗教、不安や抑うつ既往歴、仕事への不満、バーンアウト症状などが挙げられている。

本レビューでは、MIに関連する共感疲労については十分に議論されていないとする報告もあった（Jack & Kotronoulas, 2023）。しかし、最新の研究では、モラルレジリエンス（Moral Resilience：道徳的回復）とMD、MI、および共感疲労の関連が示されている（Albaqawi & Alshammari, 2025）。今後、MIとMD、さらに関連する概念の理論的・実証的な解明が進展することで、医療従事者の心理的回復とメンタルヘルス支援の充実につながることを期待される。

表2 モラルインジャリーとモラルディストレスの対比

	Litz他, 2009; Hollis他, 2023; Litz他, 2025		Cartolovni他, 2021
モラルインジャリー (MI)	定義	他者とのつながりや人間性、人生の意味に関する信念が損なわれることで生じる、道徳的感情・行動の障害を伴う心理的な傷	制御不能な状況や人間の残酷さを目撃するなどの外的・内的要因によって生じ、深い感情的な傷を残し、罪悪感や無力感などが長期的に続き、社会的孤立や機能不全につながる可能性がある深刻で長期的な影響を持つが、適切な治療によって回復や道徳的成長も可能
	原因	自分の道徳的信念に反する行為をした／目撃したこと	
	症状	罪悪感、裏切り感、自己への怒り	
	心理的影響	PTSD、抑うつ、自己嫌悪	
モラルディストレス (MD)	Jameston, 1984; 庄野他, 2025		Cartolovni他, 2021
	定義	自分が正しいと信じる行動ができない状況に置かれることによる苦悩	法律や病院方針などの外的制約、または道徳的価値観との葛藤によって生じ、自責や抑うつなどの心理的苦悩を引き起こし、ケアの質や仕事への満足度を低下させ、燃え尽きや退職につながることもある外的制約の除去や道徳的回復力の強化によって予防可能
	原因	制約により「正しい行動」ができない	
	症状	無力感、倫理的ジレンマ、職業的ストレス	
心理的影響	倦怠感、離職意向、慢性的ストレス		

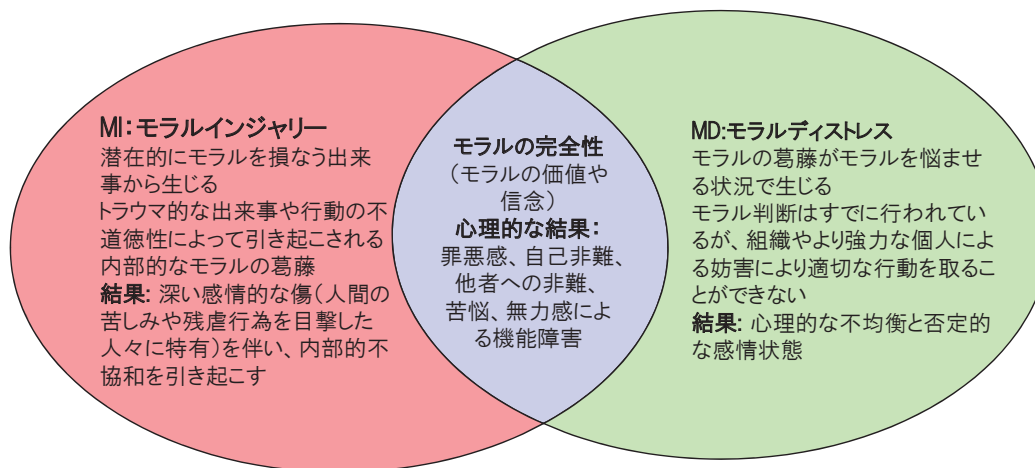


図4 モラルインジャリーとモラルディストレスの相互作用

* Cartolovni他, 2021 (p.597) の図を翻訳

5. 研究の限界と今後の展望

本研究では、Litz 論文から派生した MI 研究のレビュー文献を分析し、MI の定義および評価尺度の変遷、COVID-19 パンデミック下における MI と関連概念の様相、ならびに看護師研究における MI と MD の概念的重なりと違いについて明らかにした。

日々、倫理的問題に直面し、道徳的葛藤を抱える医療従事者の体験の中には、従来の PTSD や抑うつ、MD の枠組みでは十分に説明しきれない状況が存在する。MI の概念を用いることで、こうした深層的な苦悩の構造をよりの確に捉え、回復への糸口を見出す可能性がある。

日本における MI 研究は未だ少なく、文化的適応についての検証が必要である。しかしながら、MD

研究の蓄積を踏まえつつ MI 研究が展開されていくことで、より多くの医療従事者の苦悩の軽減に寄与することが期待される。

本稿ではレビュー文献の分析にとどまったが、今後はこれらのレビュー文献を起点とした調査研究等の分析を通じて、MI 研究のさらなる発展や具体的な治療および回復過程の検証を進めることが可能であると考えられる。

本研究は、JSPS 科研費基盤研究 C (JP24K13823) の助成を受けて実施した。

引用文献

- Albaqaw, H. M., & Alshammari, M. H. (2025). Resilience, compassion fatigue, moral distress and moral injury of nurses. *Nursing Ethics, 2*(3), 798-813. <https://doi.org/10.1177/09697330241287862>
- Alexander, A. R., & Kerig, P. K. (2025). Reframing the victim-offender overlap: Moral injury and adolescent offending. *Clinical Child and Family Psychology Review, 28*(2), 370-391. <https://doi.org/10.1007/s10567-025-00520-y>
- Austin, W. (2016). Contemporary healthcare practice and the risk of moral distress. *Healthcare Management Forum, 29*(3). <https://doi.org/10.1177/0840470416637835>
- Brémault-Phillips, S., Pike, A., Scarcella, F., & Cherwick, T. (2019). Spirituality and moral injury among military personnel: A mini-review. *Frontiers in Psychiatry, 10*. <https://doi.org/10.3389/fpsy.2019.00276>
- Carey, L. B., Hodgson, T. J., Krikheli, L., Soh, R. Y., Armour, A. R., Singh, T. K., & Impiombato, C. G. (2016). Moral injury, spiritual care and the role of chaplains: An exploratory scoping review of literature and resources. *Journal of Religion & Health, 55*(4), 1218-1245. <https://doi.org/10.1007/s10943-016-0231-x>
- Donovan, N., Lukic, G., & Mason, O. (2025). A scoping review of moral injury in refugees. *European Journal of Psychotraumatology, 16*(1). <https://doi.org/10.1080/20008066.2025.2501369>
- Frankfurt, S., & Frazier, P. (2016). A review of research on moral injury in combat veterans. *Military Psychology, 28*(5), 318-330. <https://doi.org/10.1037/mil0000132>
- Gaitens, J., Condon, M., Fernandes, E., & McDiarmid, M. (2021). COVID-19 and essential workers: A narrative review of health outcomes and moral injury. *International Journal of Environmental Research and Public Health, 18* (4). <https://doi.org/10.3390/ijerph18041446>
- Gausemel, A., & Filkuková, P. (2024). Virtual realities, real recoveries: Exploring the efficacy of 3MDR therapy for treatment-resistant PTSD. *Frontiers in Psychology, 15*. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2024.1291961>
- Griffin, B. J., Purcell, N., Burkman, K., Litz, B. T., Bryan, C. J., Schmitz, M., Villierme, C., Walsh, J., & Maguen, S. (2019). Moral injury: An integrative review. *Journal of Traumatic Stress, 32*(3), 350-362. <https://doi.org/10.1002/jts.22362>
- Hall, N. A., Everson, A. T., Billingsley, M. R., & Miller, M. B. (2022). Moral injury, mental health and behavioural health outcomes: A systematic review of the literature. *Clinical Psychology & Psychotherapy, 29*(1), 92-110. <https://doi.org/10.1002/cpp.2607>
- Hollis, J., Hanna, P., & Perman, G. (2023). Recontextualising moral injury among military veterans: An integrative theoretical review. *Journal of Community & Applied Social Psychology, 33*(1), 85-101. <https://doi.org/10.1002/casp.2607>

doi.org/10.1002/casp.2643

- Houle, S. A., Ein, N., Gervasio, J., Plouffe, R. A., Litz, B. T., Carleton, R. N., Hansen, K.T., Liu, J. J. W., Ashbough, A. R., Callaghan, W., Thompson, M.M., Easterbrook, B., Smith-McDonald, L., Rodrigues, S., Bélanger, S. A., H. Bright, K., Lanius, R., Baker, C., Younger, W., et al. (2024). Measuring moral distress and moral injury: A systematic review and content analysis of existing scales. *Clinical Psychology Review, 108*. <https://doi.org/10.1016/j.cpr.2023.102377>
- Jameton, A. (1984). *Nursing practice: The ethical issues*. Englewood Cliffs. <http://hdl.handle.net/10822/800986>
- Jamieson, N., Carey, L. B., Jamieson, A., & Maple, M. (2023). Examining the association between moral injury and suicidal behavior in military populations: A systematic review. *Journal of Religion & Health, 62*(6), 3904-3925. <https://doi.org/10.1007/s10943-023-01885-6>
- Jones, K. A., Freijah, I., Carey, L., Carleton, R. N., Devenish-Mearns, P., Dell, L., Rodrigues, S., Jonson, L., Hosseiny, F. & Phelps, A. J. (2022). Moral injury, chaplaincy and mental health provider approaches to treatment: A scoping review. *Journal of Religion & Health, 61*(2), 1051-1094. <https://doi.org/10.1007/s10943-022-01534-4>
- Kelley, M. L., Strowger, M., Gabelmann, J. M., Vasic, S., Rivera, I. E., Fleming, R., Burgin, E. E., Bravo, A. J., Fleming, W. H., Gaylord, S. A. & Vinci, C. (2024). A review of empirical treatments focused on mind-body and spiritually grounded complementary practices for moral injury among veterans. *Counseling and Values, 69* (1), 65-91. <https://doi.org/10.1163/2161007X-BJA10011>
- Koenig, H. G., Youssef, N. A., & Pearce, M. (2019). Assessment of moral injury in veterans and active duty military personnel with PTSD: A review. *Frontiers in Psychiatry, 10*. <https://doi.org/10.3389/fpsy.2019.00443>
- Kurkova, V., Winkler, O., Greenshaw, A., Swainson, J., Lodewyk, K., Saghafi, P., Dannett, E. & Burbach, L. (2025). Exploring the potential of psychedelic-assisted psychotherapy for moral injury: A scoping review. *Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry, 138*. <https://doi.org/10.1016/j.pnpbp.2025.111333>
- Lentz, L. M., Smith-MacDonald, L., Malloy, D., Carleton, R. N., & Brémault-Phillips, S. (2021). Compromised conscience: A scoping review of moral injury among firefighters, paramedics, and police officers. *Frontiers in Psychology, 12*. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2021.639781>
- Litz, B. T., Stein, N., Delaney, E., Lebowitz, L., Nash, W. P., Silva, C., & Maguen, S. (2009). Moral injury and moral repair in war veterans: A preliminary model and intervention strategy. *Clinical Psychology Review, 29* (8), 695-706. <https://doi.org/10.1016/j.cpr.2009.07.003>
- Litz, B. T. (2025). Moral injury: State of the Science. *Journal of Traumatic Stress, 38*(2), 187-199. <https://doi.org/10.1002/jts.23125>
- Litz, B. T., & Walker, H. E. (2025). Moral injury: An overview of conceptual, definitional, assessment, and treatment issues. *Annual Review of Clinical Psychology, 21*, 251-277. <https://doi.org/10.1146/annurev-clinpsy-081423-022604>
- Lopes, J., McKinnon, M. C., & Tam-Seto, L. (2023). Adding insult to injury: Exploring the relation between moral injury and military sexual trauma. *Journal of Military Veteran and Family Health, 9*(4), 19-28. <https://doi.org/10.3138/jmvfh-2022-0045>
- Mantri, S., Lawson, J. M., Wang, Z., & Koenig, H. G. (2020). Identifying moral injury in healthcare professionals: The Moral Injury Symptom Scale-HP. *Journal of Religion and Health, 59*(5), 2323-2340. <https://doi.org/10.1007/s10943-020-01065-w>
- 松枝美智子. (2021). 看護職者は COVID-19 パンデミックによる大規模災害の危機にいかに関与しているか。

るのか？ 星槎大学紀要 共生科学研究, 17, 10-17.

- McEwen, C., Alisic, E., & Jobson, L. (2021). Moral injury and mental health: A systematic review and meta-analysis. *Traumatology*, 27 (3), 303-315. <https://doi.org/10.1037/trm0000287>
- Molendijk, T., Verkoren, W., Drogendijk, A., Elands, M., Kramer, E. H., Smit, A., & Verweij, D. (2022). Contextual dimensions of moral injury: An interdisciplinary review. *Military Psychology*, 34 (6), 742-753. <https://doi.org/10.1080/08995605.2022.2035643>
- Nash, W. P., & Litz, B. T. (2013). Moral injury: A mechanism for war-related psychological trauma in military family members. *Clinical Child and Family Psychology Review*, 16, 365-375. <https://doi.org/10.1007/s10567-013-0146-y>
- Nash, W. P., Marino Carper, T. L., Mills, M. A., Au, T., Goldsmith, A., & Litz, B. T. (2013). Psychometric evaluation of the Moral Injury Events Scale. *Military Medicine*, 178 (6), 646-652. <https://doi.org/10.1037/t33652-000>
- Nazarov, A., Jetly, R., McNeely, H., Kiang, M., Lanius, R., & McKinnon, M. C. (2015). Role of morality in the experience of guilt and shame within the armed forces. *Acta Psychiatrica Scandinavica*, 132 (1), 4-19. <https://doi.org/10.1111/acps.12406>
- Nieuwsma, J. A., O'Brien, E. C., Xu, H., Smigelsky, M. A., VISN 6 MIRECC Workgroup, HERO Research Program, & Meador, K. G. (2022). Patterns of Potential Moral Injury in Post-9/11 Combat Veterans and COVID-19 Healthcare Workers. *Journal of General Internal Medicine*, 37 (8), 2033-2040. <https://doi.org/10.1007/s11606-022-07487-4>
- Richardson, N. M., Lamson, A. L., Smith, M., Eagan, S. M., Zvonkovic, A. M., & Jensen, J. (2020). Defining moral injury among military populations: A systematic review. *Journal of Traumatic Stress*, 33 (4), 575-586. <https://doi.org/10.1002/jts.22553>
- 白柿綾, 庄野亜矢子. (2025). 精神看護におけるモラルディストレスの動向. 聖カタリナ大学研究紀要, 37, 41-55.
- 庄野亜矢子, 白柿綾, 西田佳世. (2025). モラルディストレスに関する国内外の研究の動向：クリティカルケア看護に着目して. 聖カタリナ大学研究紀要, 37, 23-40.
- Tuomisto, M. T., & Roche, J. E. (2018). Beyond PTSD and fear-based conditioning: Anger-related responses following experiences of forced migration—A systematic review. *Frontiers in Psychology*, 9. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2018.02592>
- Williamson, V., Stevelink, S. A. M., & Greenberg, N. (2018). Occupational moral injury and mental health: Systematic review and meta-analysis. *British Journal of Psychiatry*, 212 (6), 339-346. <https://doi.org/10.1192/bjp.2018.55>
- Williamson, V., Murphy, D., & Greenberg, N. (2020). COVID-19 and experiences of moral injury in front-line key workers. *Occupational Medicine*, 70 (5), 317-319. <https://doi.org/10.1093/occmed/kqaa052>
- Williamson, V., Murphy, D., Stevelink, S. A., Jones, E., Allen, S., & Greenberg, N. (2022). The relationship between moral injury and radicalisation: A systematic review. *Studies in Conflict & Terrorism*, 45 (11), 977-1003. <https://doi.org/10.1080/1057610X.2021.1961706>